ごあいさつ

会長　神崎忠男

日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト（ＨＡＴ－Ｊ）は、お陰様で創立三十周年を迎えることが出来ました。これもひとえに会員はじめ登山界の関係各位のお力添えの成果と深く感謝申し上げ、心より御礼申し上げます。

思い返せば、一九八〇年代にはいり、思いついたように山岳自然保護活動の重要性が国際的に取りざたされ、ヒマラヤの麓ネパール・カトマンズで開催された国際山岳連盟（ＵＩＡＡ）創立五十周年記念総会で「カトマンズ宣言」を採択。これを機に具体的な活動のうねりが世界中に走るなかでＨＡＴ－Ｊは生まれました。その頃、すでに各主要山岳団体にはそれぞれ自然保護委員会がありそれなりの活動をし、自然保護は大切だという観念は誰でもが持っていましたが、山岳自然環境自体を目的にした専門組織団体としての設置は画期的な発想でした。まして国際的にも活動出来る環境団体と活動的にも巾の広い組織に会員も活動指針に戸惑いながらの入会。一九九〇年十月十六日、六本木の国際文化会館で設立総会が開催され、田部井淳子女史を代表とし約千六百名の加盟会員で出発しました。

会員所有の倉庫の一角に小さい事務所を置き、やることはでっかくやろうと、意欲満々ななかに船出しました。活動については、「通史」を参照していただくこととし、一時は自然保護愛好家、また田部井淳子代表のファンなど会員の幅も広がり、順調な組織運営、

活動に、自然保護活動の啓蒙、啓発に大きな成果をみるにいたりました。日本の山がゴミの無い美しい山になったのはＨＡＴ－Ｊの成果と自負しています。

国際的な事業も積極的に取り組みました。特にアジアの国々は、自然保護ＨＡＴ－Ｊ精神に共鳴され、日数が立つにつれ、日本国内より海外でのＨＡＴ－Ｊの存在感が高まるほどでした。たしかに発足当時の一時期においてはＨＡＴ－Ｊの成り立ち、存在は登山界では知られていましたが、昨今においては会員のみぞ知るという環境にもなってきました。知名度は組織のかたちや活力にも影響があるのか、三十年を迎えた今日では二百八十名という会員数になり、新入会員の減少、会員の高齢化、組織の固定化、主要山岳団体との連帯連携の欠如などによる組織存続の危機感が拭い去れない状況になってきました。しかし、三十年間の歴史と実績はＨＡＴ－Ｊの成果として誇れるものとなりました。

登山界一時代の所期の責任と使命を果したというプライドに陰りはありません。組織の解散を前に、終わるということは寂しいことではありますが、潮時こそ勝機と理解し三十年の活動を閉じることにいたしました。これからのＨＡＴ－Ｊに関わった会員のひとりとして、ＨＡＴ－Ｊの実績と精神を歴史的遺産として伝え残していくかに尽力を注いでいきたい。

最後に、会員及びＨＡＴ－Ｊを支えていただいた関係各位、登山界の主要山岳団体の皆様に、お詫びを含め深謝し感謝を申し上げます。

ＨＡＴ－Ｊ三十年、本当にありがとうございました。

ＨＡＴ－Ｊ　三十年

公益社団法人日本山岳会 会長　古野　淳

三十年の間、ヒマラヤの民、私たちの友人たちの環境改善のためにご尽力されてきたことに、心より感謝申し上げます。

一九九〇年頃のヒマラヤには、今と違って日本からもたくさんのトレッカーや登山隊が押し寄せていた華やかな時代でした。日本の山ですでにゴミを山中に捨てる人は皆無と言ってよかったと思いますので、当初、すぐにはこの活動の意味が理解できませんでした。

自身の遠征経験では、一ルート一隊の時代だったので、ゴミは焼いて、灰は埋め、その他はポーターたちが持ち帰るといった処理がなされていました。やがて、エベレストをはじめとする人気ルートのキャンプ地がゴミで汚染されていることが国際問題化していたことが認識され始めた頃でした。日本語の書かれた食料品のパッケージの写真を撮って外国メディアが流し、世界中から日本隊が非難された事件も記憶しています。当時世界のＧＤＰ二位になりあがった日本がエコノミック・アニマルと揶揄される存在で、そのイメージがヨーロッパ人に嫌われていたのだと想像しますが、それを払しょくしてくれたのが、田部井さんを中心としたＨＡＴ－Ｊの活動でした。

ヨーロッパ以外では二度とありえないだろうという著名な登山家を田部井さんの人脈で東京に招聘し、ヒマラヤ山岳環境保全団体ＨＡＴの東京パートＨＡＴ－Ｊで「東京アピール」がなされました。この宣言は日本の登山隊のイメージを大きく転換してくれたことに、

ほんとうに私たちは感謝しなくてはなりません。一九九一年十一月、エドモント・ヒラリー卿、モーリス・エルゾーグ、クリス・ボニントン、ラインホルト・メスナー等が一同に集まり夢のようなシンポジウムが開かれました。

「テイク・イン・テイク・アウト」はすべての日本隊に徹底される合言葉となりました。ＨＡＴ－Ｊではルクラにゴミ焼却施設を作り、リンゴを植えてその収入をかかる経費に充てました。その後、様々な環境保全のシステムが構築され始めました。ナムチェバザールではＳＰＣＣと呼ばれるゴミ処理ＮＧＯが発足しました。登山隊からゴミ処理費用を強制徴収し、隊荷をＢＣに荷揚げするローカルポーターは、帰路に対価を受け取ってゴミを下ろすシステムをネパール人だけで構築されました。現在もそのシステムは機能しており、さらに「アイスフォールドクター」がアイスフォールを整備して登山隊から徴収した対価をＳＰＣＣの運営資金としています。環境保全と、ローカルの雇用と、ポーターたちの人権保護も含んだＮＧＯ活動は、世界的に見てもすぐれたシステムだと評価されています。

環境団体の活動と言えば、とかく政治やイデオロギーをベースに人や資金が集まってくるという傾向にありがちですが、ＨＡＴ－Ｊの良さは、お金や権威にとらわれることなく、ボランティア同士で楽しく活動を行ったことだと思います。これは神﨑さんの人柄が大きくかかわっており、田部井さんと二人三脚で、そして、それをサポートしてくれたボランティアの努力に尽きると思います。

あらためて三十周年をお祝いするとともに、発展的な解散を希望します。

ＨＡＴ－Ｊ　三十周年の締めくくりに寄せて

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会 前会長　八木原圀明

「環境活動の先駆け」は言い過ぎでしょうが、今から三十年前の一九九〇年頃、世界の登山界を牽引する著名な登山家が集まって、「登山界の環境団体」「ＨＥＴ」が出来、その日本版が山岳四団体が田部井淳子さんを押し立ててのＨＡＴ－Ｊでした。

田部井さんというシンボルの存在のお陰にもよりましたが、丁度この頃、登山界が環境活動を積極的に自ら動く必然性、時代を迎えていたということだと思います。日本でも山岳四団体がうまく機能し始め、知恵と実行力を持ち寄って創設し推進しました。登山界が一つになっての環境活動以外にも拡がるキッカケが出来たように思います。プラスチックブーツの突然破壊問題などもありましたが、ネパールの山岳博物館建設支援、「山の日」創設などはその一連の成果と言えると思います。

発足から一年後の「山岳環境保護国際シンポジウム東京会議」にはＨＥＴのメンバー、ヒラリー、エルゾォーグ、メスナー、ボニントンなどなど、世界を代表する登山家が日本に集まり、その後の活動の大きな推進力になったと思います。一九九四年のルクラの焼却炉運転開始、リンゴプロジェクトなど。

これからますます、気候変動など地球環境の大切さが叫ばれる時代になります。ＳＤＧｓなるものも叫ばれています。こういった時に解散するというのは何という時代の皮肉、巡

り合わせというべきでしょうか。しかし、三十年という時間、時代の激しい変わり目で、ＨＡＴ－Ｊは一時代の、一定の使命、役目を果たし、次のランナーにバトンを渡すと考えれば良いと思います。

素人の私は評価の仕方も分かりませんが、時代の変わりようというのは、例えば科学技術の進歩。写真を撮るのにフィルムが要らなくなり、いくらも経たないうちに今度はカメラを持たずに写真を撮る携帯電話、スマートフォンの出現。「宇宙だ、ＩＴだ」などと言ったら、私には言葉もありません。

時代の変わり目と言いますが、「人の気持ちも社会を変えている」わけで登山界だけの問題ではありません。スポーツの世界でも若い人の入部、入会はどんどん減っています。野球部も柔道部もスポーツ少年団も入部者の激減を憂え、あのＩＯＣですら若者のスポーツ離れに危機感を抱いています。スポーツクライミングやスケートボードがオリンピック種目となった大きな理由の一つです。

貧乏人である私などは、僻みながら思ってしまいますが、世の中がカネ、カネで動いているからかなぁーと。日本だけではない、世界を正常な模様に塗り替えてくれる力強い牽引者の現れることを信じたいと思います。世界中を震撼させている新型コロナウィルスは東京オリンピック開催中の八月三日現在、感染は日本では百万人に迫り、世界中で二億人弱、死者は四百二十万人超。巨大な環境問題、情けない最後の言葉ですが無力感のみ。明るい未来を信じてゆきましょう。

日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト創立三十周年記念誌

日本勤労者山岳連盟 理事長　浦 添 嘉 徳

日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト創立三十周年記誌発行にあたり、日本勤労者山岳連盟を代表してご挨拶を申し上げます。

ＨＡＴ－Ｊ創立の時に全国労山から理事二名を派遣して活動してきました。

ＨＡＴ－Ｊの国際的な活動については、皆様はよくご存じのことと思いますので、私は山岳七団体のなかでのＨＡＴ－Ｊとともに活動した思い出について述べさせていただきます。

私が、ＨＡＴ－Ｊのみなさんとかかわったのは、アジア山岳連盟環境保護委員会の主催で二〇〇七年に開催された「松本国際山岳自然環境会議２００７」からです。その後、環境会議の報告書を作成するなどについての会議で、「山岳七団体（山岳団体自然環境連絡会）がやっと共同してできるようになった」「まとまって、何かやるなどアピールしていけるような団体になればいい」という話し合いが行われたことを思い出します。

その後、毎月会議が行われ、自然環境保護の問題で話し合い議論を重ねてきました。二〇〇九年に、谷川連峰トレイルランニング大会の開催にあたり、群馬県みなかみ町から、山岳団体に意見を求める文書が送られました。七団体（山岳団体自然環境連絡会）で話し合い、①高山植物が踏み荒らされるなどの自然保護の立場、②参加者の安全の立場か

ら－みなかみ町に意見書を提出、この大会は中止になりました。

この時期は、高山帯へのニホンジカの進出が著しくなり、高山植物などへの影響が大きく大問題になりました。二〇一一年、七団体でその対策について話し合いました。そして、広く登山者等に知ってもらうことが必要と、パンフレットを作成するとともに、山岳での野生鳥獣の生態を調査する立場から、登山者に「野生鳥獣目撃レポート」を寄せていただくための活動にも取り組みました。

二〇一一年に、東日本大震災の津波による被害で、福島原発が爆発しました。東京電力は尾瀬ヶ原の約六割を所有しており、この土地を民間に売却するのではないかという報道もありました。山岳団体自然環境連絡会でどのような行動をとるか話し合いました。そして、二〇一二年四月「尾瀬国立公園の自然環境・生態系保全を継続的・安定的に行うための意見」書を環境省などに提出、マスコミ各社、関係諸団体等にも発送しました。

以上のような活動に、ＨＡＴ－Ｊのみなさんは大きな役割を果たされました。

日本ヒマラヤンア・ベンチャー・トラストは、残念ながら解散することになりました。みなさんは、今後もそれぞれのところで自然保護活動に精を出されることと思います。全国労山は、ＨＡＴ－Ｊが掲げてこられた自然保護の立場、思いを引き継げることは引き継いでいきたいと考えています。

皆様に、これまでのご活動にご苦労様でしたとの感謝を申し述べて、日本勤労者山岳連盟を代表しての挨拶といたします。

海外からのメッセージ（訳）

ＵＡＡＡＡ 会長／ＵＩＡＡ 名誉会員　イ・インジョン

山のお兄さん神崎さん
山の仲間たち
ＨＡＴ－Ｊさんへ

まず最初に、皆さんがコロナ禍の世界で無事に過ごしていることを願っています。今、世界は人間だけでなく、私たちの住む地球にとっても大変厳しい時代になっています。

ＨＡＴ－Ｊの三十周年を心からお祝いするとともに、神崎さんと故田部井淳子さんに深く感謝したいと思います。

ＨＡＴ－Ｊのことを考えるとき、私はいつも山のお姉さんである田部井淳子さんを思い出します。彼女は、女性によるエベレスト初登頂を達成しただけでなく、ＨＡＴ－Ｊを設立し、それを通じて山岳環境の保護を実践した偉大な登山家です。淳子さん、神崎さんとは、ＵＡＡＡＡやＨＡＴ－Ｊの分野でたくさんの楽しい思い出があります。

ＵＡＡＡＡを代表して、ＨＡＴ－Ｊと神崎さんに、多くの会合や環境会議に参加して、ＵＡＡＡＡに貢献してくれたことに感謝いたします。

ＨＡＴ－Ｊが組織として終了してしまうのはとても悲しいことですが、私はＨＡＴ－Ｊのことを忘れません。なぜなら淳子さんと神﨑さんはいつも私のそばにいるからです。

神﨑さんといえば、アジア登山協会やＵＡＡＡの兄貴分であり、山の世界で率先して行動する傑出した人物です。彼らの偉大な貢献に敬意を表して、私はＨＡＴ－Ｊのメンバー全員とアジアの代表団に、たとえＨＡＴ－Ｊという組織が消えたとしても、私たちはＨＡＴ－Ｊの理念とこれまでの活動、そして人生における精神を忘れてはならないと伝えたいと思います。

今回、皆様にお会いできたことを大変嬉しく思います。このような困難な時代に何を思うか、コロナの世界と人類による気候変動の時代に何をしなければならないかを話し合う良い機会になりました。改めて、皆様のご無事とご健勝をお祈り申し上げます。どうもありがとうございました。

中国登山協会 首席　李　致新

ＨＡＴ－Ｊ創立三十年来、中国登山協会はＨＡＴ－Ｊと友好関係を持ち、深く友好交流を行いました。特に一九九五年八月、中国の長白山で国際交流青少年環境体験登山と、二〇〇七年七月、北京で国際青少年環境体験登山を開催され、大きな成果を収めました。

ＨＡＴ－Ｊ創立三十周年おめでとうございます。私は中国登山協会を代表して、改めてお祝い申し上げます。

ＨＡＴ－Ｊ組織は解散すると聞いて、大変残念に思いますが、人や精神は残ります。これからも皆様と更なる友好を深め、皆様のご健勝をお祈り致します。

ネパール山岳協会 会長　サンタ・ビル・ラマ

尊敬するみなさま

私からのメッセージが皆様のお役に立てれば幸いです。ネパール登山協会を代表して、ＨＡＴ－Ｊの三十年に及ぶ輝かしい成功を心から祝福いたします。

あなたの献身と誠意によって、登山の分野は多くのものを得ることができました。そして、これからも末永くご活躍されることをお祈りしております。今後とも、皆様とのお付き合いをお願い申し上げます。

ＨＡＴ－Ｊのみなさま、ネパール山岳協会の代表としてまた、家族として、お祝い申し上げます。ＨＡＴ－Ｊ創立三十周年おめでとうございます。

ＨＡＴ－Ｊはこれまでたくさんの環境問題に取り組んでこられ、その活動はネパールのみならず世界中の人たちとチームになり、様々な活動をしてきたことを素晴らしいと思い

ます。

ＨＡＴ－Ｊのような団体は、献身的に働く優秀なチームとフレンドリーな職場環境があれば、高い成果を目指すことができます。皆さんと一緒に仕事ができたことは本当に光栄で、一緒に行った一つ一つの仕事や取引を大切にしています。国と国は離れていても、ＨＡＴ－Ｊの活動は遠くの私たちにもたくさんの影響を与えてくれました。二つの国が同じ望みを夢見て活動していくことはとても素晴らしいことで、私たちにとって、ＨＡＴ－Ｊの存在自体がとても意味のあるものでした。〝一緒にやればなんでもできる〟ということで、世界が広がりました。そして今後もその精神は引き継がれていくと思います。今後も個々で未来に向かってご活躍されることを祈ります。

モンゴル山岳協会　ザイヤ・サンジャ

この度のお知らせは嬉しかったですが、お別れするのはちょっと寂しいですね。

ＨＡＴ－Ｊが青少年や国同士の友好のために充実したイベントを開催したことを祝福したいと思います。若者のための充実したイベント、そして国と国との友好を意味するＨＡＴ－Ｊを祝福したいと思います。私たちユースは何度もイベントに参加し、たくさんのためになる情報や教育を受けました。

私たちモンゴルの若者からＨＡＴ－Ｊに多くの感謝を送りたいと思います。あなたがたの協力に感謝し、あなたがたの幸運と健康を祈っています。

ＨＡＴ－ＪはＵＩＡＡとＵＡＡＡに非常に大きなサポートをしてきました。日本の友人達との楽しい思い出をよびおこすことができてとても嬉しいです。

早くこの困難な時期を終えることができることを願っています。心からベストを尽くし、東京オリンピックでのご活躍をお祈りしています。またお会いできることを楽しみにしています、よろしくお願いします。ありがとうございました。

中華台北健行登山會 理事長　黄 一元

神峰高氣躍層巒
崎嶮藏龍騰岳壇
忠報東瀛揚海外
男德禮道容膝安

聖なる山頂、無凡な運気、至る所に躍動している険しい所に龍が潜んで、高山に飛び上ろうとしている日本の忠実な行いは、世界に広く知られている男の品格、礼儀と学問は、

日々些細なことで磨かれる。

東京の京王プラザホテルでＨＡＴ－Ｊの三十周年記念式典に出席し、日本の友人たちに会いたかったです。これからも、皆様との変わらぬ友情とご支援をお願いいたします。確かに、友情は永遠ですね。